

お薬を正しく使うために



正しいタイミングで使いましょう



一般的には「食後」は食事後から30分以内、「食前」は食事の30分前、「食直前」は食事をす
る直前、「食間」は食事の2時間後（空腹になった頃）を目安にしてください。「寝る前」や「起床
時」などに飲むお薬もあります。

食事が不規則で「食後」「食前」などのタイミングでは服用できない人や、お薬の飲み忘れが多く
て困っている場合は、医師や薬剤師に相談してください。飲み方や量を調節できる場合があります。



医師が指示した量を守って使いましょう



お薬は、医師に指示された量で飲みましょう。自己判断で量をかえると、病気が治らなかつたり、
思わぬ副作用が起こることがあります。

解熱鎮痛剤や便秘薬など、症状の強さによってお薬を飲む量や回数を自分で決めてよい場合もあり
ますが、量や回数の増やしすぎはよくありません。受診の際に医師に相談して、量や回数の限度
を決めましょう。



お薬が余る場合は、医師に伝えましょう



治療を長く続けていると、お薬がたくさん余る場合があります。そのようなときは医師に伝え、
処方量を減らしてもらいましょう。余ったお薬は、医療費の無駄となるだけではありません。他の
病院の例ですが、余ったお薬を間違えて多く飲んでしまい、中毒になった例が報告されています。

医師に伝えるのを忘れた場合は、かかりつけ薬局の薬剤師に相談してください。



お薬手帳には、自分でも記録を残しましょう



皆さんのふだんの服薬状況や体調なども「お薬手帳」にいっしょに書いておくと、それだけで立
派な健康管理記録になり、いざというときに役立ちます。気づいたことは、自分でも記録を残しま
しょう。

当院を受診される時には、「お薬手帳」をお持ち下さい

♪ お問い合わせ 薬剤科 ♪

♪ 多摩南ミ二通信をご希望の方は、患者支援センター地域連携部門までお問い合わせください ♪

親知らず^{かがくまいふくちし}（下顎埋伏智歯）の抜歯

親知らずの抜歯 について

親知らずは、炎症や手前の歯の虫歯や歯周病、そして歯並びを悪くする原因といわれています。

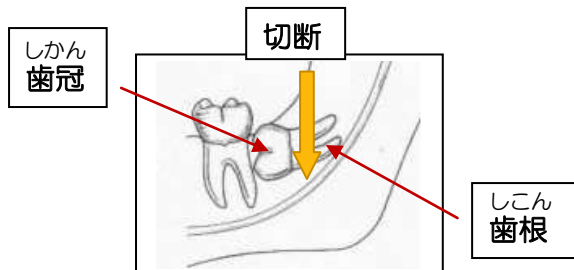
親知らずの抜歯は当科でよく行っている外来手術のひとつです。

一般的な方法

親知らずの周りの骨を削った後歯冠部を切断、除去後歯根を抜去します。

抜歯後下唇知覚麻痺(下歯槽神経麻痺)

智歯が下顎の中を通っている神経に近い
ため抜歯の刺激で抜歯した側の下唇や歯肉に感覚異常などを起こすことがあります。(0.4%~1%)



2 回法と歯冠除去術(Coronectomy) について

当科では完全抜歯を原則としておりますが、術中に歯根癒着・止血困難な出血・神経の損傷の恐れがある場合には 2 回法あるいは歯冠除去術に変更することがあります。2 回法、歯冠除去術は下歯槽神経麻痺の予防に有効とされている方法です。当院で抜歯を受けられる場合には、歯科口腔外科で詳しくお聞き下さい。

【 2 回 法 】

- ① 1 次処置: 歯冠部を除去した後に歯根はとらずに傷は一度閉鎖します。
- ② 2 次処置: 数カ月後残された歯根が移動して神経から離れたら、残存させた歯根をとります。

【 歯冠除去術 】

2 回法の応用として、歯冠除去部に骨が再生されてくるので歯根をそのままにして歯冠のみを取り出します。万一感染が起これば 2 回法で歯冠を除去します。

